

県立大学設立委員会（第2回）議事録

1 日 時：平成27年3月24日（火） 午前10時30分～12時00分

2 場 所：長野県庁 特別会議室

3 出席者

委員：安藤国威委員長、金田一真澄副委員長、徳永保副委員長、赤松利恵委員、
上野武委員、上條宏之委員、近藤幹生委員、中条潮委員、山浦愛幸委員、
若林昌二委員、渡邊早苗委員

事務局：総務部県立大学設立担当部長 高田幸生
総務部県立大学設立準備課長 増田隆志
建設部施設課長 岩田隆広 ほか

4 議事録

（事務局）

それでは、定刻になりましたのでただいまから第2回県立大学設立委員会を開会いたします。まず初めに県立大学設立担当部長の高田幸生よりご挨拶を申し上げます。

（高田担当部長）

皆様おはようございます。県立大学設立担当部長の高田でございます。第2回県立大学設立委員会開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は各委員の皆様方におかれましては、年度末の大変お忙しい中をご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

昨年9月17日に第1回設立委員会を開催させていただきましたけれども、それ以降の状況について、簡単に申し上げたいと存じます。

まず、新大学の理事長予定者であります安藤様、そして学長予定者であります金田一様のお二人には、昨年10月20日付けで、長野県の「県立大学設立参与」にご就任をいただきまして、大学の設立に向けた諸準備に御尽力をいただいているところでございます。また、徳永様には「高等教育参与」として、高等教育の振興施策全般にわたる御助言、御支援を頂戴しているところでございます。

昨年11月以降、設立委員会のもとに、教育課程・教員選考、施設整備、管理運営の3つの専門部会を設け、それぞれ専門的な見地から、基本構想の具体化に向けた検討をお願いしております。専門部会での検討状況につきましては、後程、事務局よりご説明を申し上げます。

専門部会の部会長をお願いしてまいりました安藤様、金田一様、上野様をはじめ、各委

員の皆様方には、これまでの御協力にこの場をお借りして、改めて感謝を申し上げるところでございます。

27年度事業につきましては、関係予算が過日、県議会で認められましたので、教育課程の編成、専任教員の選考、入学者選抜方法の検討、施設の実施設計など、平成30年4月の開学に向けた準備をさらに精力的に進めてまいりたいと考えております。

今後も準備状況を随時ご報告させていただき、ご指導を頂戴しながら進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上簡単ではございますが、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。本日はどうぞ、よろしくお願いいたします。

(事務局)

はい、ありがとうございます。それでは、本設立委員会の安藤委員長様からご挨拶を頂戴したいと思います。

(安藤委員長)

皆様おはようございます。委員長の安藤でございます。

本日は、3月という大変年度末のお忙しい中に、長野までお越しいただきまして、本当にありがとうございます。

先程、高田部長さんも触れられましたけれども、昨年9月の第1回設立委員会以降、3つの専門部会を設置していただき、大変精力的にいろいろな検討を重ねてまいりました。

特にこの間、部会長をお願いいたしました、金田一先生、上野先生をはじめ、各委員の皆様方には大変に御尽力いただきまして、心から感謝を申し上げたいと思います。

特に施設整備専門部会の上野先生には、千葉大学をいろいろと見せていただきましたけれども、本当にご熱心な御指導をいただきましてありがとうございます。それから、管理運営専門部会の徳永先生からは大変幅広い見地からの適切なアドバイスを多々いただきまして本当にありがとうございました。

私も、昨年10月に阿部知事から正式に「県立大学設立参与」を拝命いたしまして、改めてこの長野県のために立派な大学をつくろうという思いで、身を締め縮める思いでおります。

その後色々と懇談を進めてきたのですが、特に昨年の10月には、県民の皆様からの御意見を直接伺いたいということで、松本市と長野市におきまして、説明会を開催させていただきました。私と金田一先生が出席させていただきました。

大変に率直な意見交換をさせていただいたと思っていますけれども、概ねこの新しい大学に対する期待感とサポートの声をお聞きしまして、大変に力強く思いました。

しかし、議事録が配布されていますので、資料をお読みになられたかと思いますが、松本市におきましては県民が等しく、この新県立大学をサポートしているわけでは無いのだ

という御意見もいただきまして、それに対して私たちも真摯に対応させていただきました。しかし、これからもっと大学設立の意義に関しましては、幅広く皆様の期待に応えるように、これからも説明会を開くなどして努力をしてまいりたいと思っております。

それから、昨年9月には加藤長野市長とも懇談させていただきまして、これから協力して長野市のためにも誇りある大学として頑張りたいと話をさせていただきました。それから長野県経営者協会と長野県商工会連合会の皆様とも懇談させていただきまして、その際に、産学官協同ということを進捗していくためにも大学を中心として色々と協力関係を深めていきたいという思いをお伝えしまして、その時にも各ビジネスの関係者の方からも、大いに力強いサポートをしていただけたという約束もさせていただきました。本当に感謝しております。

平成30年4月の開学を目指して、さらに詰めていくべき点多々ありますけれども、これからも関係の皆様ともご議論を重ねながら、私も先頭に立って鋭意努力していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それから本日は議事が円滑に進行されますように、各委員の皆様方の御協力をお願いしたいと思います。簡単ではございますが、御挨拶に代えさせていただきます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。ここで前回の委員会の際にご都合によりご欠席でありました上野委員様から、恐縮ではございますが自己紹介を頂戴したいと思います。よろしく願いいたします。

(上野委員)

千葉大学の上野でございます。施設整備の専門部会で部会長をやらせていただきました。前回は欠席することになってしまいまして申し訳ございませんでした。よろしく願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。なお、本日は木苗委員、三隅委員、山沢委員、またオブザーバーの黒田長野市副市長様が都合によりご欠席となっておりますのでご報告を申し上げます。

また、本委員会の事務局であります県立大学設立準備課から課長の増田以下職員、また施設の建設を担当しております建設部施設課長の岩田が出席をさせていただいておりますのでよろしく願いいたします。

それでは、以降の進行につきましては安藤委員長をお願いしたいと存じます。よろしく願いいたします。

(安藤委員長)

それでは早速、議事に入らせていただきたいと思います。まず次第の4にございます議事事項の1、第1回県立大学設立委員会以降の検討状況等につきまして、事務局から資料の説明をお願い致します。

(増田課長)

県立大学設立準備課長の増田でございます。よろしくお願い致します。それでは資料の1をお願い致します。第1回の県立大学設立委員会、9月17日、お願いしたわけですが、それ以降の検討状況ということでございまして、まず1につきましては、先ほど高田部長のあいさつの中で申し上げましたとおりでございます。

安藤国威委員長、金田一真澄副委員長が県立大学設立参与に、また徳永副委員長に高等教育参与として、ご就任をいただいているところでございます。

2の設立に向けた検討状況等でございますが、本委員会の下に部会を三つ設置し、ご検討をいただいております。

まず、(1)の①と致しまして、教育課程・教員選考部会でございます。11月4日に設置・開催を致したところでございます。金田一副委員長を部会長に徳永副委員長、および三隅委員長を副部会長とし、本日ご出席の近藤委員、中条委員、渡邊委員他の皆さまに委員となつていただいております。

この会議はここに、ごく簡単に検討結果として書いてございますけれども、主に新県立大学では四つのセンターを想定してございますが、その持つべき機能、あるいは設置場所についてご検討をいただき、ご意見を頂戴したところでございます。

特に、ここに記載してございますように、その場所につきましては、今の県立短期大学のある場所、三輪キャンパスと呼んでございます。それから2.1キロほど離れた後町小学校の跡地、後町キャンパスと呼んでございますが、言語教育センターやキャリア開発センターにつきましては、学部教育との関係、学生の利便性等から考えても三輪キャンパスが適当であろう、というご意見を頂戴しました。

また後町キャンパスは街中にごございますし、長野駅からも比較的近いという特長を生かしまして、生涯学習センターなど、一般の方が利用したり、地域の方が教員や学生と共同で研究したり、意見交換するような機能を持つのが良かろう、というご意見を頂戴したところでございました。

こうした検討を受けた形で②と致しまして、施設整備専門部会を設置し、ご検討をいただきました。②に記載のとおり、11月7日に第1回を開催し、以降、第3回まで検討をいただいております。上野委員長に部会長をお願い致しまして、金田一副委員長が副部会長として、また本日ご出席の徳永副委員長、それから上條委員他の皆さまに委員となつていただいたところでございます。

主に基本設計について検討いただいたところでございまして、これは後に別途、状況についてご報告を申し上げ、ご意見を頂戴できればと思っております。それから3と致しまして管理運営専門部会でございます。管理運営に関する事項についての検討ということで、本年1月8日に設置・開催を致しました。安藤委員長を部会長に、金田一副委員長、それから徳永副委員長を委員に、人事給与制度の考え方等についてご意見を頂戴致しました。別途資料でご報告し、ご意見を頂戴したいと存じます。

2以降は意見交換等の状況でございます。(2)につきましては、ただ今、安藤委員長からお話のありましたとおりでございますが、10月末に開催致しました意見交換会について記載してございます。長野会場では約80名、松本会場では約100名の方においでをいただきました。

安藤委員長、それから金田一副委員長が理事長予定者・学長予定者というお立場で、抱負ですとか、県立大学の果たすべき役割ですとか、こういった人材を育成したいということ、また、どういう授業をしていくかといった考えを述べられて、会場からの質問や意見に答えるといった形で実施したものでございます。

別添資料1の5に内容がございますので、またご覧をいただければと思いますけれども、例えば安藤委員長からは、地域に産業を生み出すシステムができることが大切で、新しい大学がその核、知の拠点となっていきたいというようなお話、あるいは他の大学と一体となって、長野県全体を魅力的な地域としていきたいといったような話を頂戴しました。金田一先生からは教育重視の大学にして、厳しいけれども学生の努力が身に付く大学としたいというお話。小規模であるが故の親身な指導をして、質の高い教育ができるのではないか、などのお話があったところでございます。

会場からは、先ほど安藤委員長からお話もございましたが、期待を込めた具体的提案もございましたし、あるいは学部・学科に対する疑問などが出されて、非常に熱心な、あるいは丁寧なやりとりが行われたところでございます。

それから(3)でございますが、これは長野市・関係団体・地域等の説明状況でございます。長野市長とお話をいただいたことにつきましては、安藤委員長から先ほどあいさつの中でございました。市長からも期待と協力のお話を頂戴致したところでございます。また経済団体とも意見交換をしていただきました。今後その経済団体だけではなくて、個別の企業などにも訪問をし、あるいは訪問していただき、より具体的な連携・協力関係を築いてまいりたいと考えているところでございます。

それから、後半に書いてございます高校・大学との意見交換、それから地域住民との意見交換は事務局で実施してきてございますが、この県立大学の地元であります長野市の後町小学校の周辺地区である第四地区、それから三輪・上松地区の皆さまを対象に説明会を開催致しました。

大学の概要ですとか、地域の中で学びたい、地域の一員として共に歩む大学キャンパスにしていきたいということをお願いし、また今後の施設整備の、おおむねの日程等をご説

明し、ご協力の依頼を行ったところでございます。合わせて80名ほどのご参加を頂戴致しまして、住民の皆さまからは、学生にとって魅力のある施設を作ってもらいたい、あるいは学生と地域との交流に期待をしているということ。それからキャンパス自体を緑豊かで、地域の住民も利用できるような、開放的な空間としてほしいというようなお話。それからキャンパスの建物もそうですし、生活自体も近隣住民の生活環境に配慮をしてほしい、といったご意見を頂戴しました。

また併せて工事を行う際の配慮についてのご要望等を頂いたところでございます。今後また工事、あるいは大学運営に向けて長野市と連携を図りながら、頂いたご意見を十分に踏まえて、引き続き地域の皆さんと意見交換を行いながら、進めてまいりたいと考えているところでございます。

資料が多くて恐縮ですが、地域の皆さんからの意見、それから長野市関係団体からの意見につきましては、資料1-6として添付しているところでございます。なお資料1-2から資料1-4までは、各部会の委員の皆さまがたの名簿と設置要綱を添付しているところでございます。以上、これまでの経過についてのご報告でございます。よろしくお願い致します。

(安藤委員長)

どうもありがとうございました。ただ今、説明された内容につきまして、何かご質問等があれば、ぜひこの機会にお願いしたいと思っておりますけれども。特にございませんか？

【質疑なし】

(安藤委員長)

それでは特にないようですので、次の議題に移させていただきたいと思っております。次に議事事項の2、専任教員の人事給与制度について事務局から資料の説明をお願い致します。

(増田課長)

それでは資料2をお願い致します。1月8日および3月16日の管理運営部会で、これから新県立大学の専任教員を雇用し、あるいは人事給与の制度をつくっていくにあたっての、基本的な考え方についてご検討をいただきました。その取りまとめとして、基本的な考え方をお示しするものでございます。

1の雇用期間は記載のとおりでございますけれども、適性のある教員を確保していこうということ。それから流動性、あるいはその教員の立場からの安定性という観点から、新しい県立大学の専任教員には、本人の意向を踏まえてテニュアトラック制、または任期制を原則として適用していこうということでございます。ただし、理事長が認める一定の者については、定年制も適用することができる、ということとしたところでございます。

なお、ここでいうテニユアトラック制につきましては、(1)に記載してございますが、雇用期間を原則として3年間として雇用致しまして、その雇用期間中に審査に合格すれば、引き続き定年まで雇用することができるか、お勤めいただくことができる制度ということで、ここではテニユアトラック制という使い方をしてございます。

それから任期制につきましては(2)に記載のとおりでございます。雇用期間は1回につき5年を上限。雇用期間満了をもって雇用は一旦終了し、雇用期間を延長する場合には、通算10年を上限としようというものでございます。労働契約法上10年を超えると、労働者の申し込みにより、期間の定めのない労働契約となるということもございまして、任期制と致しましては10年を上限としているところでございます。定年制につきましては、通常の記事のとおりのものでございます。

それから2の定年ですけれども、定年をどこに設定するかということ、ご検討、ご議論いただいたところですが、新県立大学の専任教員の定年は、満65歳とするという案でございます。なお、教育研究実績が特に顕著な者等、理事長が認める者については、65歳を超えて雇用し、または勤務を継続することができるという例外規定と申しますか、方針も併せて持とうというものであります。

3の給与制度でございますが、本人の意向を踏まえまして、二つの制度いずれかを適用していこうというものでございます。一つは月給制でございまして、一つは年俸制です。

これは本人の意向を踏まえまして、年俸制のほうが自分自身のキャリアの中でふさわしいとお考えの方、あるいは月給制のほうがいいという、そういった本人の意向も踏まえまして、月給・年俸制のいずれかを適用していこうというものでございます。

それから4の退職手当でございますけれども、退職手当につきましては長野県の職員退職手当条例に準じた規定を定めまして、支給してまいろうという考え方でございます。なお近年、年俸制の導入に併せてと申しますか、退職手当を支給せず年俸に組み入れるというような形で、退職手当自体がないという形態もございまして、今後の他の大学の状況等を勘案しながら、見直しを行っていくこととしているところであります。

以上が基本的な考え方でございますけれども、30年4月の開学時にあたっての特例と致しまして、5項目提示しているところであります。1点目と致しましては現在、県短期大学の専任教員の方がいらっしゃいます。既に長野県と雇用関係にございまして、先生がたの状況の把握というのでございまして、(1)に記載されておりますように、新県立大学の専任教員に移行する際には、原則として定年制、および月給制を適用していこうということです。

それから開学時におきましては、適性のある教員を短期間に多くお願いしていかなければならないという、そういった必要性などから、開学時に際しましては、上記の原則の中ではテニユアトラック制、または任期制を適用するところですが、教授・准教授については定年制を適用することができる、としていこうというものでございます。

それから満65歳を超えた雇用というものもできると考えていく。理事長が認める者につ

いては、満 65 歳を超えて雇用することができる。それから開学に際して採用される専任教員については、65 歳を超えても平成 33 年度の末日まで、これは 4 年間、大学の学年完成の期間が 33 年度までございますので、そこまでの雇用をお願いしていこうということでございます。

それから 5 につきましても、ほぼ同様な趣旨でございまして、テニュアトラック制で採用される教員の、最初の雇用期間については上記 1 の原則では 3 年としているところですが、初年度である平成 30 年度に採用される者にあつては 4 年間とするものでございます。以上でございます。よろしくお願い致します。

(安藤委員長)

どうもありがとうございました。ただ今の事務局からの説明に関しまして、管理運営専門部会の委員の皆さまからの補足説明も含めて、ご意見を頂戴致したいと思います。徳永委員、何か補足説明はございますでしょうか？

(徳永委員)

今、増田課長からご説明いただいたとおりですけれど、例えば給与制について年俸制というのはなじみのない制度かもしれませんが、実際には既に国立大学については、昨年から文部科学省でも、全国の国立大学教員をその方向に切り替えていくという形で、特に大きな主要大学、大規模大学の教授を中心に、既に年俸制の切り替えというものが進められつつあります。ですから、この大学が開学する時点での状況ということを考えますと、平成 30 年という時点においてはかなり年俸制というのが一般化をしている、というように思われているところでございます。

(安藤委員長)

この人事給与制度は、きょうの三つの大きな議題のうちの一つでございますので、他の委員の方からも何かご意見等ございましたらば、頂きたいと思っておりますけれども、特に県立短期大学からの移行について、上條先生は何かご意見ございますか？

(上條委員)

特にございません。これでいいかと思えます。

(安藤委員長)

特に他の委員の方、ご意見等ございませんでしたら先にいきたいと思えます。今日はあくまでも考え方のベースの説明ということでございますので、最終的にどのような形になるかにつきましては、私と学長予定者の金田一先生で、最終的に決めさせていただきたいと思えますのでよろしくお願い致します。それでは 3 番目の議事事項ですけども、三輪キ

キャンパスおよび後町キャンパスの基本設計についての説明をお願いしたいと思います。

(増田課長)

基本設計につきましては、先ほど経緯のところでも触れました施設整備専門部会におきまして検討をお願いしてまいってきたところでございます。なお設計者は公募プロポーザル方式により選出致したわけですが、プロポーザル選定委員会の委員長に上野部会長をお願い致しました他、施設整備専門部会の多くの委員に、選定委員会に加わっていただいたところでございます。

そこで選ばれました設計者であります石本建築事務所が加わりまして、3回にわたり部会を開催致しました他、部会の委員の皆さまには他にも検討会をお願いするなど、ご指導を頂戴致しました。あらためて御礼を申し上げます。

部会におきましては建物の配置、あるいは教室や研究室のレイアウトなど、どういった形にしたらより交流が生み出しやすいものになるかであるとか、後町キャンパスの学生寮においての、学生の合理的な動線は確保されているかなどの観点で、さまざまなご意見ご検討をいただきまして、第3回の2月17日の専門部会では、基本設計の主な点について、おおむねの了承をいただいたところでございます。内容につきましては施設課長から、ご説明を申し上げます。

(岩田施設課長)

施設課長の岩田隆広でございます。よろしく申し上げます。今、正面中央に提示しましたのが、基本設計の検討段階で作成させていただきました模型でございます。安藤委員長さんのほうから見まして手前が南、そちらで北側を臨んでいる形になっております。それで大きいほうの模型が三輪キャンパス、それから小さいほうは学生寮の後町キャンパスの模型となっておりますので、ご覧いただきたいと思っております。

それではお手元の資料3をご覧いただきたいと思っております。カラーA3サイズのものでございますけれども、1枚目に三輪キャンパスの建物内部2階の部分から1階のホール、それから3階のガラススクリーンの向こうに見える大講義室を見渡したイメージ図で、設計のコンセプトを表したものでございます。

今回の設計では教室・講義室・演習室、これらの部屋だけではなくて、これらの部屋を結ぶ共用空間、キャンパスコモンという言葉を使っておりますけれども、それらの空間で学部・学科を越えた学生同士、それから教職員、来客者が交流する場を、さまざまな所に設けまして、建物全体を学びの空間として整備するというコンセプトとしております。

それからまた、校舎の各階の様子を見渡せるように吹き抜け、それから教室内を見通せるガラススクリーンによりまして、学校校舎内での学習、それから活動が常に目に入るようにしまして、学習意欲の向上や能動的な学習に結び付けることをコンセプトとしております。

次のページをご覧くださいと思います。三輪キャンパス全景の鳥瞰図でございます。現在の短期大学の敷地に整備する大学の校舎で、敷地の南側から北の方向を見渡したものとなっております。建物中央部を見ていただきたいと思いますが、正面がエントランスとなっております。その右側、3階建てに見える部分ですが、その1、2階の部分が管理部門。それから3階、一部4階もありますけども、健康文化学科となります。

さらにその右側でございますけども、ガラス張りの部分が東に低層で伸びておりますが、この部分が食堂になります。それから建物一番右側になりますけども、白とグレー、市松模様のような外壁、壁となっておりますけども、この部分が体育館で、長野市が管理しています美和公園に近い位置としております。

それから正面、エントランスに戻っていただきまして左側でございますけども、3階建ての部分、1階が語学学習、それから国際交流などを行いますメディアプラザ、それから2階、3階につきましては総合マネジメント学科になります。

さらにその左側になりますけども、2階の建物がございまして、1階の部分が学生が共通して学習する総合教育エリア、それから2階の部分は図書館としまして、その左手に少し濃い肌色の屋根が見えますけども、これが既存の図書館でありまして、この部分に2階で、廊下でつなぐような計画としております。

次のページをご覧くださいと思います。三輪キャンパスの配置計画を示したものでございます。左側の図の所を見ていただきますと、イエと書いた部分がいくつかございまして、これらの部分に講義室・研究室・体育館などを配置しまして、これらを水色の部分、ミチ・ニワというふうに書いてございますけども、この部分で学生や教職員が交流する共用空間を結ぶような構成としております。

それから資料右下の部分になりますけども、建物全体につきましては3階建てを基本としまして、さらに敷地の北側・西側につきましては、2階建てとすることで周辺住宅地に配慮をしたものとしております。

次のページをご覧くださいと思います。各校舎の各階の平面計画です。各フロア共通ですが、学科、それから講義エリアの部分を中心部分の水色の部分、共用空間、先ほど説明しましたキャンパスコモンを結ぶことで、全体の概念図を示してございまして、右下のほうには今の概略を、概念図として示したものを記載させていただきました。

次のページをご覧くださいと思います。環境関係に配慮した校舎の設備の内容を示したものでございます。下のほうに8種類のそれぞれのシステムを書いてございますけども、主なものは太陽光それから地中熱を利用して、建物の冷暖房を補助するシステムの導入を検討しているところでございます。

続きまして、次のページをご覧くださいと思います。1年生全員が生活する寮を、長野市の旧後町小学校の跡地に整備するものでございます。右側の鳥瞰図をご覧くださいと思いますが、建物は4階建てとしてございまして、北棟と書いた部分は旧後町小学校の校舎があった位置、それから南棟の部分は旧体育館があった位置を計画してござい

す。それから北棟と南棟につきましては、ラーニングハブと書いてある2階部分の通路で二つの棟をつなげる計画としております。

次のページをご覧くださいと思います。敷地の広場から建物全体を見た、学生寮の外観図でございます。次のページをお願いしたいと思います。各階の平面計画図でございます。右下のユニットプランをご覧くださいと思います。2人部屋の寮室8部屋で16人が一つの単位、ユニットで共同生活するという構成としております。各ユニットにはトイレ・洗面などの他に、16人全員が集まって意見交換などができるリビングラウンジを設ける計画としております。

それから各階の平面図に示したように、先ほどのユニットが同じフロアでは横方向に、それから上下階のユニットは階段でつなぐものになっておりまして、異なるユニットで生活する学生の交流ができるものとしております。このユニットを20設けまして320人が生活する施設としております。

左上の2階の平面図をご覧くださいと思いますが、北棟と南棟を結ぶラーニングハブという言葉で書いてありますけれども、その部分を左側にパースで可視化してございますけれども、学生が学習や交流するエリアを設ける部分としております。さらに左下の部分でございますけれども、この1階の部分に地域連携施設を設けまして、学生それから地域住民の方々も利用できる講義室、大小のミーティングルームを整備するものとしております。

次のページをご覧ください。後町キャンパスの環境に配慮した整備内容を示したものです。左側下の部分に五つの項目が載っておりますけれども、主なものとしまして、お湯の供給にランニングコストが削減できるということで、ヒートポンプ方式、それから寮室の温度環境をより快適にするということで、断熱・遮熱性能の高い複層ガラスを採用することを検討しております。基本設計の説明につきましては以上でございます。よろしくお願ひ致します。

(安藤委員長)

どうもありがとうございました。それでは施設整備専門部会の部会長でいらっしゃいました上野委員から専門部会での検討状況や基本設計の確認作業に際しまして、いろいろご留意いただいた点があるかと思っておりますけれども、それらについてご説明していただければありがたいと思います。

(上野委員)

はい。先ほどご説明ありましたように、専門部会をこれまで3回開催してまいりました。その間に、もう少し突っ込んだ議論をするために、設計検討会というのを2回ほどやってまいりました。一番大事にしたのは今日の資料にもあります施設整備の基本構想です。その中に示されています六つの項目。一つ目が特色ある教育を行い、勉学に集中できるキャ

ンパスとするという課題。二つ目が環境・景観と調和するキャンパスにするということ。三つ目が地域・世界に開かれ、多様な交流を誘発するキャンパスとする。四つ目が施設を効率的に利用し、合理的・機能的に配置されたキャンパスにするということ。五つ目が安全・安心なキャンパスとする。六つ目が費用対効果の高いキャンパスとする。この六つの基本方針が、設計に反映されているかということを確認するというのが、施設整備検討部会の大きな役目でした。

その中でいろいろ議論した論点としては、施設課長からのご説明にもありましたけれども、学生が自ら主体的に学ぶラーニングコモンとか、アクティブ・ラーニング・スペースというような所が、きちっとできる空間になっているかということ。それと学生、あるいは教職員のコミュニケーションを誘発するといいますか、建築としてそういうことがしやすい建物になっているかということも議論致しました。

さらに研究室や講義室の配置、あるいは大きさ、そういったものが適切かどうか。あるいは合理的な施設配置になっているか。あと周辺環境への配慮がなされているか。それと空間のフレキシビリティといいますか、将来的にいろんな変更に対応できることになっているか。あるいはコストパフォーマンスの高い設計になっているか、というようなことについて議論をしてまいりました。

結果としまして三輪キャンパスについては、キャンパスコモンという空間、そこに配置されたアクティブ・ラーニング・スペースという所が、さまざまな場所に配置されているという点。先ほど申し上げました、交流を誘発するという意味では非常にいい形になってきたのではないかとこのように思っております。

また寮になる後町キャンパスですけれども、16人が生活するユニットの中の共用空間で、学生同士のコミュニケーションを誘発するという形も、十分配慮していただけたのではないかとこのように思っております。新県立大学の教育理念を具現化するという形としては、非常に期待の持てる設計になっているのではないかと思います。これからいろんなソフト面とかハード面を両方考えていかななくてはと思いますけれども、良い大学施設ができるのではないかと期待しています。

それと今後、今年の暮れに向けて実施設計を進めていくわけですけれども、その中で細かなところを詰めていくこととなります。スケジュール的にはかなりタイトではあるのですけれども、関係者の皆さんの緊密な連携をしていただいで、円滑に推進していただきたいと思っております。

(安藤委員長)

どうもありがとうございました。ただ今の事務局、そして上野部会長からのご説明につきまして、何か皆さまからご意見とかご質問とかありましたらば、この機会にお願いしたいと思っております。

今日のこのカラーの資料でイメージが湧いてきたような気がしているのですが、大変よ

くできているというか、コンパクトにまとまった中にも、非常に機能的で基本的なコンセプトのコミュニケーションとか、それからラーニングコモンコンセプトをうまく取り入れていただいて、大変素晴らしいものに仕上がったのではないかと考えています。

ただ、いろんな経費の制約もあり難しいかとは思いますが、私はシンボリックなものを、このキャンパスに一つ持つとするとどういうことができるのかなと考えています。その辺についてアドバイスは上野先生からありますか？

(上野委員)

はい。いくつかそういう議論も出ております。それで、その中でいくつか議論した点で言いますと、非常にシンボリックな時計塔などをやるという方法もありますし、一方で長野という自然環境、特にこの前庭が非常に広々とした緑の空間になりますので、ここをもう少しキャンパスの外部空間として、非常にシンボリックなものにするということもできるのではないかというようなことを議論しておりまして、それについては今後実施設計等で詰めていったらいいのではないかという話になります。

(安藤委員長)

そうですね。私も、やはりこの前のスペースをどううまく使っていくかということはキーになると思っています。他に、どなたか委員の方でご意見とかご質問でも、ぜひありましたらば。

(徳永委員)

意見ですけど、新県立大学は今の既存の図書館それから講堂をそのままお使いになります。この俯瞰図を見ていて、もちろん空から見ると人はそれほど居ませんが、下から見ましても屋根の色は見えますし、その向こうは地附山ですけど、山の上から見ると結構この辺がよく見えるんですね。善光寺さんからも多分見えやすいので、この際お金は掛かるとは思いますが、例えば既存の図書館と体育館、講堂についても屋根の色を統一するとかいうのは、お金がかかるでしょうか？

(安藤委員長)

私もそれ気になっていたのですが、それぐらいのフレキシビリティというか余裕はどうでしょうかね？

(岩田施設課長)

私のほうからお話しさせてもらいたいと思いますけども、資料2ページの大学の鳥瞰図を見ております。先ほどもエコアイテムの中で、今回の屋根は太陽光の集熱とか、そういうところで利用するというので、基本的には黒を基調にした屋根にしようかということ

で今、検討が続いております。それらは最終的にどうなるか分かりませんが、既存の屋根のほうも当然、統一を図るようなことで検討は進めさせてもらいたいと思います。

(安藤委員長)

そうですね。ぜひよろしく申し上げます。はい、どうぞ、赤松先生。

(赤松委員)

本当に素晴らしいこの絵を見ると、私も具体的なイメージが湧いてきました。図書館と講堂は多分、地域の人たちも使っていただけるようになる場所だと思いますので、きれいにさせていただきたいですね。

そして、大学ですので、学会などもできるような環境になると、いろいろなところから先生がたが集まり、ここで議論ができるんじゃないかなと思います。そういった会議なども、しやすいことも考慮していただけたらと思います。あともう一つはお庭が広いので、四季折々の花を楽しめるようなお庭になればいいなと思いました。

(安藤委員長)

どうもありがとうございます。どうでしょうか？今、仰られた交流の他にも、学会とかに使えるような、そういう会議をするような場所もこの中にはあったんですか？

(上野委員)

それに関しましては、次の3ページを開いていただいて、ミチ・ニワという空間とイエという空間があり、ちょうど真ん中にあります大きな道には、キャンパスコモンとっている所ですけども、こういったところに周囲に大きな教室群がございますので、そこを利用しながら学会等を開催して、そこから出てきた方がこういった所にいるんな意見交換・情報交換を図るといのは十分可能ではないかと思っております。

次の4ページに、もう少し具体的な平面図がございますけれども、2階の講義エリアというのは、それこそ学会の分科会等には十分使えるかと思っております。それと1階部分は既存の講堂とかを使って、メインのキーノートスピーチとか、そういうこともできるんじゃないかと思えます。

(安藤委員長)

ありがとうございました。3ページにある右上の図について、これはもちろん市とのいろいろ調整もあるかと思いますが、美和公園を含めた一体化したキャンパスでいきたいというイメージを持っていますが、これについてはどうでしょうか？

(増田課長)

この場所は長野市の都市公園になりまして、長野市自身も大学と一体となってこの辺りを整備していこうという方向で今検討をしているところでございます。公園の機能も地域の中に必要なものでございますので、具体的にどのように作っていくかは、長野市や地域の皆さんとご相談して、一体とした利用のできるようなものになればと、今、検討を進めているところでございます。

(安藤委員長)

どうもありがとうございます。これは長野市にも私からも強力にお願いして、何とかうまく、市にとっても、周りの住民の方にとりましても、あるいは大学にとってもいいような利用の方法を考えていきたいと考えておりますので、いろいろ調整をさせていただきたいと思っております。他に、どなたかご意見は？

(山浦委員)

寮のことなんですけども、広さが全然よく分からないので、個室があつて、このユニット制 16 人というものについての考え方を教えていただきたいのですが。

(安藤委員長)

各ユニットが 16 名ずつになっていると。8つの部屋で2人組ですね。その基本コンセプトというか、どうしてそうなっているかについて考え方を聞きたいというご質問なんです。

(岩田施設課長)

はい。私のほうから説明できる範囲内でお話しさせてもらいたいと思っておりますけども、もともと今回、1年生を入学と同時に寮に入らせていただくことにつきましては、共同生活をする事で、学部・学科を越えた深い交流、それから、ここの後町小学校の跡地に整備するという事で、地域社会との連携を通しまして学生としての一層の成長を図るというようなことで、寮の検討がなされてきました。

その中で何人くらいの単位が共同生活する中で、お互いの意見交換とか学ぶということで考えたときに、どれくらいの人数がいいだろうというようなことを議論する中で、20人前後の人数の中で議論する中で、最終的に16人に落ち着いたところですから、目安とすれば20人前後で一つの単位として、検討をしてきたというところの成果が16人で決まったというところでございます。

(山浦委員)

ユニット制自身は、コミュニティーを16人でつくろうということなんですかね？

(岩田施設課長)

基本的には16人で一つの単位を作って、共同生活の中でお互い向上していこうという考えでいます。先ほども説明したようにユニットを越えた交流もできる部分もございますし、それから2階のラーニングハブ、さらには南棟の1階の部分に地域連携施設というような、ユニットを越えた交流の場も設けて、基本的には16人単位での交流の基本的なものを定めた上で、また他の人とも交流ができるというような、寮の施設設計にしたというところでございます。

(赤松委員)

このお部屋は2人で一つの扉になるのですか？これは完全な個室ではないんですね？

(岩田施設課長)

基本的に2人部屋ですので完全な個室ではございません。8ページの右下の所にユニットプランが書いてございますけども、寮室と書いたそれぞれの部屋が2人部屋で、その中央に簡単な仕切りが設けることになっておりますので、基本的には相部屋というような2人部屋を簡単な仕切りで仕切る程度のもので考えております。

(赤松委員)

細かいことですが、電気は一つということですか？

(岩田施設課長)

はい。部屋全体のライトは一つでございますけども、それぞれの勉強機の所には手元にそれぞれ照明というような形で施設にする予定になっております。

(安藤委員長)

最近、各大学で大変立派な寮が続々と建設されつつありまして、寮のメリットは強調されているんですけども、最近の流れは個室なんです。ところが、あえてこの大学では団体生活を1年のときからきちっと経験するというのもあって、2人部屋、相部屋ということでコンセプトを作ってきました。

その背景には、日本の大学生は受験をするときまでは、ものすごくレベルも高いし勉強をよくするんですけども、大学に入った後は欧米に比べたら、ほとんど勉強しないというか、この辺の圧倒的な格差がありますので、これは金田一学長の強いご意向もあって1年のときにきちっと寮生活をすることによって、ディシプリンというか勉強する規律を身に付けるための第1学年目であってほしいという思いを持って、この寮の役目を考えています。金田一先生は何かご意見ありますか？

(金田一委員)

この寮は新大学にとって大変重要な位置付けになると思います。新幹線が走り、これから私は首都圏からも優秀な学生をぜひ採っていきたいと思っております。そのときに1年生全寮制、そこできちっと生活習慣を付けさせる。そして、人間関係性・社会性・自立性、そういったものが大事だと思い、むしろ質素に寮を創りました。

東京の大学はオフィスみたいな所で学生が勉強しているんですけども、僕はあれは良くないと思います。むしろ質素なところで豊かな自然の中で勉強をする。そういうコンセプトで、その流れでこういう設計にしたということでございます。どうかご理解のほどよろしくお願い致します。

(安藤委員長)

他にどなたか意見等ありましたら。今日、この基本コンセプトをまとめていただく中で、上野部会長をはじめ、施設整備専門部会の皆さんには、大変に精力的に取り組んでいただき、あらためて感謝を申し上げたいと思います。これをもって三輪・後町、両キャンパスの基本設計につきましては、当委員会としては報告を承ったということにさせていただきたいと思っております。本当にどうもありがとうございました。

なお県としては、これをベースに、例えば先ほど出ました屋根の形状とか質感、それから外壁など仕様の詳細等については、これからさらに設計を詰めていただくということになっており、その後、最終的な確定になると考えております。

それでは次に移りたいと思っております。議事事項の4として教員選考につきまして、事務局からご説明をお願いしたいと思います。

(増田課長)

はい。教員選考の状況という点につきましてご報告ご説明申し上げたいと思っております。資料4をお願い致します。教員選考につきましては前回の当委員会で、この資料4の次のページにございます教員選考の基本方針について、お諮りをしたところでございますけれども、これに基づきまして教員選考を今進めているところでございます。1の県短期大学の教員を対象と致しました教員選考につきましては、現在進行中でございまして、記載のとおり金田一副委員長を選考委員長に選考を行っているところでございます。

また今後、27年度夏ごろをめどと、まずは考えてございますが、公募による教員選考を実施してまいりたい。28年10月の文部科学省の設置申請前には、いずれにせよ所要の教員について確定する必要がございますので、まずは27年度に公募を進めてまいりたいと考えているところでございます。以上でございます。

(安藤委員長)

ありがとうございました。金田一先生、何か補足ありますでしょうか？

(金田一委員)

はい。やはり教育は人だと思います。いくら建物が良くても教える人が良くなければいけない。いかに教育熱心な人を探るか、学生の気持ちを分かってくれる人を探るかということで今、短期大学の先生がたの審査をしているところでございます。これはかなり大勢の方なもので大変ですけれども、かなり時間をかけて一人一人きちっと審査をしているという状況でございます。

(安藤委員長)

それではこの後、教員選考のスケジュール、開学までのスケジュールも併せて説明していただいて、その後いろいろ皆さまのご意見、質問を頂きたいと思います。

(増田課長)

それでは引き続きまして資料5をお願い致します。開学までの主なスケジュールということで、大まかな表を示してございます。28年度10月、大学設置認可申請までに所要の準備を行っていくのが、一つの目安でございますけれども、記載のとおり教育課程の編成、あるいは教育内容を確定していく作業、それと並行して教員選考を行っていくということになります。

それから入学者選抜につきましては、その状況について27年度から検討を始めまして、29年度に入学者選抜の実施となるわけですが、事前に高校生等に情報提供をしていくという必要がございます。法人につきましては29年度の設立申請認可に向けて準備を進めていく必要がございます。

施設につきましては、先ほど話ございましたように実施設計に移り、27年度中に実施設計を終えまして、まずは三輪キャンパスについて着工し、それから引き続き後町キャンパスについて着工していく予定でございます。そう致しますと外構、外側の庭の部分とか、そういった部分は30年度の4月以降になってしまうかと思っておりますけれども、それ以外の部分については、おおむね開学までに完成できるという予定でございます。

またこの間、県内高校や企業等の訪問等、大学の具体化に向けまして関係者と意見交換を行うとともに、高校生やご父兄の方に興味を持っていただっていくといったようなこと、あるいはインターンシップですとか、授業の内容、さらに就職といったようなことも見据えまして、県内高校ですとか企業等への訪問などにより、意見交換や広報を行ってまいりたいと考えているところでございます。

このうち27年度につきましては、上の帯の中でも太枠で囲ってございますが、教育課程の編成、履修モデルの作成など、教育内容の決定、具体化を進め、あわせて専任教員の公募、選考審査を行います。また入学者選抜専門部会を立ち上げまして、入学者選抜方法を検討してまいりたいと思っております。また法人の設立に向けていた組織、人事給与制

度を検討し、徐々に確定してまいりたい。それから施設整備を進めてまいりたいということでございます。以下、記載のことを予定しているところでございます。説明は以上でございます。よろしくお願ひ致します。

(安藤委員長)

どうもありがとうございました。それでは、ただ今の説明につきまして各委員の方々からご質問等あればお願ひ致します。

(近藤委員)

私はこども学科のカリキュラムの素案づくりに関わってきました。開学の前か、それとも始まってから後か、分からないですけども、専門の資格を取得するための実習関係のウエイトがかなり大きく、準備が必要になってくると思われます。

そういう点では県内の公立・私立の保育園・幼稚園、あるいは児童福祉関係の施設などとの事前段階での懇談や実習依頼ということのお願ひが必要になります。設置申請の段階では、実習先からの承諾書なども必要になってくると思います。ハードなスケジュールだとは思いますが、こども学科だけではなく他の実習先等も含めて要請や懇談の機会をぜひスケジュールに加えていただきたい。こうした予定があるかどうかということ、分かれば教えていただきたい。以上です。

(安藤委員長)

どうもありがとうございました。こども学科について、事前の実習、研修段階に対する事前の準備依頼というか、そういう準備をどのように進めていくのかというご質問だったんですけども、これについてはどうですか？

(増田課長)

大変貴重なご指摘を頂戴致しました。おっしゃるとおりでございまして実際に実習は必ず必要になってまいります。また、こども学科だけではなくて、今のお話にもございましたように、他のインターンシップとか授業内容の連携も含めまして、事前にしっかりお願ひをしてまいりたいと思っております。

(上條委員)

近藤委員の指摘された問題とも関連して、開学までの準備スケジュールの中で、教員選考と入学者選抜については教員と学生に関する事で、すでに準備が進んでいたり取り組みの計画があります。それとは別に法人設立申請にかかわる準備は盛り込まれてはいるんですが、センターの事務職員等を含めて、新県立大学の職員の検討が書かれていません。県立大学開学前の段階から職員の準備が必要です。平成30年4月の開学時に職員を決めると

ということでは、とても大学が動きませんので、第 1 回のこの会でも申し上げたんですけれども、県立大学の職員スタッフをあらかじめ決めて準備していく必要があると思います。

(安藤委員長)

どうもありがとうございます。私もいろいろ大学を見学に行かせていただきまして、やはりその中でも特に事前の思いよりも実際に驚きましたのは、職員の方々の役割の重要性です。特に新発足する大学ですから普通の大学以上に、その辺が大事だと思いますので今、上條先生の指摘にあった職員に対する準備ということも鋭意進めていきたいと思っています。これについて事務局で何かありますか？

(増田課長)

ご指摘のとおり非常に重要な点だと思います。進めてまいりたいと思います。

(安藤委員長)

総合マネジメント学科のほうで、私自身も経営者協会とか商工連合会の他に、個別の企業もどんどん訪問し各トップの方々との懇談を通じて、受け入れ態勢を準備していただくとか、何が協業できるかということについて早急に進めていきたいと考えております。

(徳永委員)

専門的なことではありますが、設置認可申請に際しては当然、文部科学省との事前の打ち合わせ、それから相談ということがかなり必要になってきますが、それはいつから開始する予定でしょうか？

(増田課長)

現在、文部科学省と既に連絡を取りながらやらせていただいております。その中で具体的なものを、どのタイミングでやっていくかについては、指導をいただきながら進めてまいりたいと思っています。

(徳永委員)

特に今回の大学については、大学院を予定をしておりますので、教員審査については通常の大学院を含むようなものに比べれば、多少ハードルは低いとは思いますが、設置認可に際しては、教員個人の業績評価というのが大変になります。いわば各学部学科ごとの主要教員を何人にするのか、それについてはある程度の研究実績がある方をきちっと揃えていきませんか、結局は設置審の段階で教員の差し替えというようなこともよくあるわけでございます。差し替えについては、1分野については了解されますけれど、2分野についての差し替えということはできませんので、その意味ではかなりきちっと準備をする期

間が必要です。

もう一つは教員の業績調書を印刷する時間もトラックいっぱい運んでいくような規模ではありませんが、結構時間がかかります。途中でこの人は業績が足りないから差し替えるというようなことも基本的にはこれがまず生じない大学のほうが珍しく、当然そういう教員を差し替える、それから、業績調書を刷り直すということも当然あり得るべしということで、余裕を持って、なるべく早めに特に核になる先生がたはきちっと固めていただいて、その方の業績についての事前の相談を進めていただくことが必要かと思います。

(安藤委員長)

どうもありがとうございます。それでは今後のスケジュール、あるいは準備状況についての説明です。皆様のご意見も参考にさせていただきながら粛々と、これからペースを上げて進めていきたいと思っております。

今日は残された時間で今回がこの設立委員としては任期最後の委員会ということでもございますので、これまでの議論全体を通じて各委員の皆さまがたのご助言とか、ご意見とかを賜りたいと思います。

例えば、大学のガバナンスのこともそうですし、地域との連携とか、インターンシップですとか、優秀な学生の確保をどうしていくとか、それから開学に向けての、各高等学校に向けてのPR活動というか、広報活動的なこともあるかと思います。各委員の方々のご意見を伺いたいと思います。若林先生、何かご意見ありますか？

(若林委員)

パス図等を見せていただいて、明るい大学の雰囲気伝わってきました。やはり活力のある、学力の高い学生に入学していただくというのが一番の学校の活性化につながると思いますが、この4月に高校に入学する生徒たちが、新しい大学に初めて入学してくるようになります。予定でも高校等に訪問していただいて、周知活動をしていただくと思いますが、早めに生徒や保護者に情報が伝わるのがとても大事だと思います。

特に1年目の位置付け、評価がその後に大きく影響していくということがあります。初年度に意欲のあふれる生徒たちが集められるような選択肢の一つに入っていける情報が、なるべく早い段階から高校の進路室には、比較的情報が流れてきますが、個別の生徒に情報が届く説明会、資料配布などを工夫されていくことが大事であるという気がしています。

(安藤委員長)

ありがとうございます。これに関して金田一先生、開学前のプレスクールをやろうとか、いろいろ計画を話しておられましたけども、具体的に考えはありますか？

(金田一委員)

はい。まず長野県には 100 ほど高校があるそうですけれども、ぜひ高校の先生がたとディスカッションできる機会をこれから設けていきたいと考えております。また、広報はとても大事で、今の高校1年生が3年後にうちに来るわけですから、どういう勉強をしたらいいかということも、ある程度こちらから投げ掛ける必要があるかと思っております。

単に受験のテクニックばかりを学んで一つの科目に集中するのではなく、あらゆる科目を満遍なくよくできるような学生が欲しいなど。非常にこれは欲が深いですけれども、ですから体育や音楽やなんかもできたほうが、僕はひょっとするとイノベーションの創出とか、そういうことを考えたときには、一つの科目だけができるよりもバランスよく、あらゆることができるような学生が欲しいと僕は思っています。そういうことを高校に、これから宣伝に行きたいと思っております。

もちろんオープンキャンパスとか、ひょっとしたら東京には新聞に1面広告を出してみるなどいろいろ考えてはいます。うまくいくかどうか分かりませんが、これだけ素晴らしいものを皆さんに、本当にここにいらっしゃる委員の方には、ここまで親身に新大学のことをいろいろ貴重なアドバイスを頂いて本当に感謝しております。それに応える意味でも、ぜひいい広報をして良い学生をたくさん採っていきたいと思っております。

(安藤委員長)

どうもありがとうございます。中条先生、せっかくの機会ですので、よろしく願います。

(中条委員)

これからどうやってマーケティングしていくかという、その次の段階のところを考えなくてはいけない。基本構想はこれでいいと思いますが、若干受け狙いのところも考えなければいけないし、きちんと真面目なところも考えなくてはいけないし、その具体的なプランをそろそろ考えていったほうがいだろうと考えます。

まずはマーケットの対象をどこにするのか。もちろん長野県の高校も当然ですけれども、例えば海外はどうなのか。1年間は寮生活ですから海外から高校生を連れてくることも可能であるかもしれないし、そういったなるべくマスコミが取り上げてくれるような、マーケティングの核になるような戦略をぜひ考えていただく必要があるだろうと思います。

それから高校との連携について、これは前から申し上げているのですが、これは実際にできるかどうか分からないのですが、なるべく高校生にインターンシップで大学に来てもらうと。そうすると大学の開学より前に、その作業をやらなくてはならない。大学開学してから後は高校生に対して、そういったアプローチをすることはできると思うのですが、開学前に今、例えば高校1年生、2年生の人たちにそういったことをやることのできるかどうか考えていく必要があるのではないかと。

そこでインターンシップ的なことをやるとしたら、どういう組織でやるのかということ

も考えなくてはいけないのですが、そういったことも含めて、少し世間で、必ず新聞・マスコミ等々に取り上げてもらえるようなことを、これからやっていく必要があるかと思えます。

(安藤委員長)

ありがとうございました。マーケティングという観点から最大限に、活用していきたいということと、開学前のインターンシップをどうしようかということも、アイデアとしては出ているのですが、具体的に詰めて考えていきたいと思えます。

北陸新幹線開業で大ブームですが、県民の皆さんがたとの対話のときでも、金沢のほうから大学が来てしまって、本当に学生が確保できるのかと。今や新大学の設立は too late じゃないかというご意見も出されたりしたので、そんなこと全くないですよ、むしろ、こちらが積極的にいい学生を確保したいというふうな話もさせていただきました。いよいよこれから具体的に策を練って、積極的にアピールしていきたいというふうに思えます。それから渡邊先生は何かご意見ありますか？

(渡邊委員)

ハード面がだいぶできてきたと思っておりますけれど、これからソフト面に力を入れていかななくてはいけないのではないかと。やっぱり教員というのが非常に大切かと思えます。私どものように私立の大学ですと、創立者の理念というのを教員がよく理解し、それを伝えていくというのがあります。こういった公立の大学になってきますと、やはり教員がそういったこの新しい大学の設立理念というものをよく理解した上で、それを学生と伝えていくことが大切になります。

これから教員の選考が始まるかと思えますが、ルールをきちんと作っておいてガラス張りにしていかないと、総合判断でというような言い方になりますと、いろいろ問題が出てくるかと思えます。

非常に詳しく細かいところまで採用に関する、いわゆる業績一つについても、論文の種類、レフリーがあるない、ファースト・オーサーかどうか、そういうことの数とか、本当に細かいところまできちんとルールを決めておいて、それに則って選考をしていかないといけないと思っております。しかし人物とか、例えば教育能力というものを、どういうふうに変考、評価するのかというのも大変難しい。

しかし大学という所は、やはり教員の資質、これが一番影響するものではないかなと思っておりますので、これからこの27年度というのが非常に大変になるかとは思っています。

(安藤委員長)

どうもありがとうございました。きょうの資料3で大学のハードの面は、着々と準備されるんですけど、むしろソフト面がこれから本当に肝要であると。特に私立の場合ですと、

創立者による、開学の理念というのは非常に強く打ち出されているわけですが、私も企業経営の立場からも、そういう理念とかビジョンとか、基本的なコンセプトは非常に大事だということをよく認識しておりますので、これも全教員が共有できるように早めに強く打ち出していきたいと考えています。

実際、あまり横文字が多いとか、カタカナが多いのではなくてもうちょっと日本人にびったりくるような理念を、ちゃんと掲げていきたいと思います。

今、おっしゃっていただいたように教員の資質をどう高めて、高い質の教員を採用することが大事だと思っていますので、今のご意見を参考にさせていただいて進めていきたいと思っています。ありがとうございます。山浦さん、どんなことでも結構です。

(山浦委員)

この資料 1-6 にあるように、おいでいただいた際にお話ししたのが経済界としては希望であります。まさに自立心とか独立心、開拓精神、問題解決能力を企業で求めているわけですが、ざっと見せていただいたところによると、随所にいろいろ書いてありうまくできているのかなと思っています。

具体的に、そういうものを具現化、何やればいいのかということは非常に難しい、決め手のないような話だと思うんですけども、随所にそういうところに注目されているので、うまくいくのかなと思っています。

それともう一つ、コミュニティーとの関係について、私どもは会社みたいな所ですけど、会社はインターンシップというものでいろいろやっているのですが、形ばかりみたいになっっているのが実情ではないかと私は思います。

3日間行って実技やるよと言って来られてもやるわけにはいかないもので、説明して終わりみたいなことになるわけでありまして、もうちょっと期間も長く、企業側からも学生側からも、設備もいろいろありますので、考えて浸透していくなかで社会とコミュニティーのつながりのようなものをつくれれば非常にいいのか、やり方はいくらでもあるので、お互いに考えていきたいと思っています。

それからもう一つは、留学生がどの程度おみえになるのかよく分からないんですけども、留学生もある程度受け入れてもらって、今の社会や会社の人たちと、コミュニケーションが取れていくことが重要です。変な話ですけど、このごろインバウンドでお客さんがいっぱい来ても、長野市内では外国人が来ると戸を締めてしまうという店もあるみたいな話を聞きます。そういう中で住んでいただいて、ここへ行けばコミュニティーがある程度、海外の人たちのコミュニティーがあって、そういうものに慣れていくようなことを、だんだん長野市の街を中心にしていく一助になればいいなと思っています。

(安藤委員長)

どうもありがとうございました。基本コンセプトとして正しい方向は述べられていると。

ただこれをどう実現していくかというのにつきましては、これから努力しなくちゃいけないですけども、その中でも特にコミュニティーとの協業とか関係ということは、理念としてはうたわれても実際どう実現していくのか、どのように成果を出すかということは、非常に難しいことは私自身もよく認識しています。

最近、首都圏でベンチャービジネスを起こしたような若者たちが、これからは地方へ行く流れがあります。地方のほうが企業との密接な関係ですとか、コストも安いとか最近いろいろなメリットがいられています。特に IT 関係はどこに居ようとあまり物理的な問題はないということもありますから、個人的に流れとしては、地方がこういう新しいベンチャーとか、あるいはオープンに地域との企業と連携して活動していくことは、ますます大きな流れになってくると思っています。

そういう中でも、特に留学生につきましては、まだ具体的なことは全然進められていませんけれども、大学との提携、留学生の受け入れなんかも、きちんとやっていきたいと思っています。日本がよりオープンな社会として、留学生を受け入れるようなところを、長野モデルみたいなものをつくっていききたいと思っていますので、ぜひコミュニティーの皆さまがたの協力も仰ぎたいと思っています。近藤先生は何かありますか？

(近藤委員)

2点ほどあります。まず一つは県民の皆さんにとって、悲願の四年制の県立大学だと思うんですね。長い県短の歴史を踏まえた発展だといえます。私、具体的な数字は持っていませんけれども、県内でもある程度の力量をもつ学生たちが、県短には集まってきていると思います。ですので、四年制大学にしたことによって、さらに専門的力量を高めていくこと、いろんな地域性を理解した社会人を教育することに、つながってほしいと思います。

それから、もう一つは長野県らしさについてです。議論しだせばキリがないかもしれませんが、例えば自然の豊かさとか人との関わり、文化的にもいろんな財産がある。そういうことを学生たちも学び、特色のある県立大学らしい学問研究の場を築き、内外に発信していただきたいと思います。

(安藤委員長)

ありがとうございます。おっしゃられるように、長野県らしい誇りある大学の設立を、今まで標榜してきたんですけども、それを具体的に提示できるように進めていきたいと思っています。金田一先生、何かありますか？これについては。

(金田一委員)

やはり健康長寿ということで、心身ともに健康な若者をつくるということがまず重要かなと思っています。これはうちの大学に健康発達学部というものもありますし、そうい

うところをどんどん打ち出して、長野県が日本でもトップクラスの長寿県であるということを、これはつまり日本でトップということは、世界でトップということですから、そういう意味でも前面に打ち出していきたいと思っております。

それ以外にも長野県はかなりいろいろなものをたくさん持っていると思います。これ言いますと、時間が足りなくなるくらいありますので、その辺はおっしゃるとおりで、そのアドバイスに従って、ぜひ特色のある大学を作っていく、マスコミにちゃんと取り上げられるように頑張りたいと思っております。

(安藤委員長)

それでは上條先生、何かありますか？

(上條委員)

はい。昨日、ミズーリ大学コロンビア校の先生方が短大に来まして、平成 28 年度に学生たちを連れてきて食の問題を学びたいということに関連して、いろいろ情報交換をしました。そのとき県立大学に移行してからの交流についても話題になり、ミズーリ大学には短期・中期・長期の海外プログラムがあって、海外の大学から学生を受け入れているので、そういうものを活用して積極的に交流してもらえればという話をしていきました。

今日の議題の中で、海外プログラムが落ちていたという気がします。それは県立大学が開学しないと、うまくいかないのではないかとということで検討してこなかった面があると思いますが、今まで築いてきたものが県短期大学にも県にもあるわけですから、今から海外プログラムもきちんと準備して、それを県立大学進学希望者に提示していくことが必要ではないかと考えます。

それからもう一つ、地域や高等学校などとの連携について、これも短大として蓄積があります。これから短大をどのように閉学まで運営していくのかを含めて、高校や地域などにどのような話をしていくのが問われておりまして、高校訪問や大学説明会で説明していきますので、県立大学をどういう形で開学するかという PR の場としても、その場を使うことは、一つの方法として出来るのではないかと思います。

今、近藤委員も言われましたけれども、それなりに今まで築いてきたものをベースに、さらにその上に新しいものを付け加えるということ、ぜひお願いしたいと思います。

(安藤委員長)

どうもありがとうございます。上野さん、どうでしょうか。

(上野委員)

今、大学も教育もかなり変わってきております。そういったものの新しい流れを十分に、敏感にキャッチをしていただければと思います。特に大学入試、今、若林先生からもお話

がりましたが、実際には、これからは例えば、もう教科の知識を問うというような入試は4年後にはなくなっていくと思っています。

そういう意味では、いわば教科の枠を越えたスキル、そういうものを問うということが、国際的な潮流にもなっているわけでございまして、そのことについては高等学校のほうが対応できていないという面もあるかもしれませんが、逆に県立大学が新しい入学者選抜をすることによって、長野県の高등학교を変えていくという面もあるわけでございますので、ぜひ新しいことに対して果敢にチャレンジをしていく、そういうスタンスを持ち続けていただければと思います。どうもありがとうございました。

(安藤委員長)

どうもありがとうございました。今日は長時間にわたりご熱心に議論いただきまして、本当にありがとうございました。本委員会は今回で一区切りということになりまして、4月以降にあらためて設立委員会を組織させていただきたいと考えています。そして必要に応じて、各専門部会での検討を行いながら、さらに平成30年度の開学を目指してペースを上げて頑張っていきたいと思っています。

本日、議論いただきました内容につきまして、私のほうから阿部知事へも報告をしておくつもりでございます。本日は大変円滑な議論にご協力いただきまして、ありがとうございました。これで本日の議事を終了させていただきます。

(事務局)

どうもありがとうございました。それでは最後に、県立大学設立担当部長の高田より、御礼のごあいさつを申し上げます。

(高田部長)

本日は長時間にわたりまして、熱心にご議論いただきまして、誠にありがとうございました。お集まりの皆さまがそろっての委員会は本日が最後になりますけれども、これまで委員の皆さまがたには、それぞれお忙しい中、新しい県立四年制大学の設立に向けて、委員会あるいは専門部会にご参加をいただき、さまざまなご示唆、ご指導を頂戴してまいりました。これまでのご尽力に対しまして厚く御礼を申し上げます。

皆さまがたから頂きましたご意見等につきましては、開学に向けた具体化の作業に、しっかりと生かしてまいりたいと考えております。今後も大学の設立に向けて引き続きご指導いただきますよう、お願いを申し上げまして、簡単でございますけれども、御礼のあいさつとさせていただきます。大変ありがとうございました。

(安藤委員長)

どうもありがとうございました。

(事務局)

以上で、第2回県立大学設立委員会を閉会させていただきます。大変ありがとうございました。